

# 各種ルールの改正点・修正点について

2024年度の各種ルールブックの編集にあたり、主な改正点・修正点について報告致します。

## 1 6人制改正点・修正点

本競技規則は、2021年10月にFIVBより「ルールブック2021-2024」としてホームページで公表されたものであり、2024年度はルールの改正はない。

本年度のルールブックも「英文併記」とし、『ケースブック』についてもケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な修正点である。

### ● 修正点

1. 「ディレイワーニング」を「ディレイウオーニング」に表記変更した。
2. スコアシート記入法を多くの方に理解していただけるように修正し、スコアラーの責務について記載を追加した。
3. フロアモッピングシステムを統一した。
4. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。
5. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

## 2 9人制改正点・修正点

今年度についても、これまでのラリーの継続を踏襲し、プレーをする側も、観る側も理解しやすいよう競技規則を見直した。具体的には特殊な事情等によりプレーがノーカウントとなった場合において、公平性を保つために試合再開時のサービスについて改正を行った。またその他、日頃から公益財団法人日本バレーボール協会（JVA）に寄せられた9人制競技規則に対する意見等も参考に、条文の表現を平易にしてより分かりやすい競技規則になるよう心掛けて編集にあたった。

以下が本年度の主な改正・修正点である。

### ● 改正点

#### 1. 第10条 試合の中断と再開

##### 第2項 試合の再開

前項の試合の中断後は次により試合を再開する。

- (1) タイムアウトおよび正規の選手交代の場合は、中断したときのサーバー（サーバーが交代したときは、その交代選手）の第1サービスで再開する。
- (2) 特殊な事情による試合の中断によりノーカウントとなった場合は、中断したときのサーバーの中断したときのサービス（第1または第2サービス）で再開する。

この中断によりコートが変更になったときでも、中断したときの公式記録を有効として、中断したときのサーバーの中断したときのサービス（第1または第2サービス）で再開する。ただし、同日中に試合を再開できないときはその試合はやり直しとする。

➡特殊な事情による試合の中断を再開するサービスを変更した。

## 2. 第17条 特殊な事情による試合の中断と処置

次のような事情で試合を中断する必要があるときは、インプレー中でも直ちにプレーを停止しノーカウントとする。同日中に試合の再開が不可能なときは、試合は延期または中止とする。

(1) 他のボールや他のコート of 選手がコートに侵入し、プレーの妨げとなったとき。

(2) 照明などの設備や競技用具が破損または故障したとき。

(3) 天候の異変、地震等その他やむを得ない事故が発生したとき。

(4) 何らかの理由により審判員がプレーを停止し、そのラリーがやり直しとなったとき。

これらの場合の試合の再開は第10条第2項に定めるところによる。

➡事情を追加した。

## 3. 第21条 ネット付近でのプレー

### 第2項 ネット上の同時プレー

(1) そのボールがアンテナに触れ、またはアンテナの上方を通過したときはノーカウントとし、プレーはそのときのサーバーのそのときのサービス（第1または第2サービス）でやり直しとする。

➡ノーカウント時に再開するサービスを変更した。

## 4. 第22条 ダブルファウル

両チームの選手が同時に反則をしたときはダブルファウルであり、不法な行為（第27条）による場合を除きノーカウントとする。試合は同じサーバーのそのときのサービス（第1または第2サービス）で再開する。

➡ノーカウント時に再開するサービスを変更した。

## 5. 第29条 主審

### 第2項 責務

#### 2 試合中

(4) インプレー中に生じたノーカウントの後のサービスはそのサーバーのその時点のサービス（第1または第2サービス）で試合を再開する。（第17条、第21条第2項(5)、第22条）

➡ノーカウント時に再開するサービスを変更した。

## ● 修正点

### 1. 第1条 競技場

#### 第2項 コート(第1表)

➡種別の統一。

### 2. 第2条 ネットおよび支柱(第2表)

#### 第2項 均一性

➡種別の変更。

### 3. 第3条 ボール

#### 第1項 規格(第3表)

➡種別の変更。

### 4. 第5条 競技参加者の権利と義務

#### 第2項 監督

##### 3 監督は試合中、

(1) チームベンチの最も記録席に近い場所に座るか、試合を妨害したり遅延させない限り、自チームベンチ前の選手交代ゾーンを除いたフリーゾーン内で立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。

➡文言の変更。

### 第3項 キャプテン

4 チームキャプテンは試合中、

- (1) 監督がいないときに他の選手と交代してコートを離れるときは、コート内の選手の中からゲームキャプテンを指名する。チームキャプテンはチームベンチに退いている間はキャプテンとしての権利を失い、コート内に戻ったときは自動的にゲームキャプテンとなる。

➡監督がいない場合を追加した。

### 5. 第12条 タイムアウト

- 3 タイムアウトの間、プレー中の選手は自チームベンチ近くのフリーゾーンに出なければならない。ただし、他の試合の妨げとならない限りエンドライン後方のフリーゾーンでボールを使用しないでウォームアップをすることができる。

➡文言の変更。

### 6. 第30条 副審

#### 第1項 権限

- 1 副審は主審の補佐であるが、自身の責務範囲を持っている。(第30条第2項)

➡権限を変更した。

#### 第2項 責務

##### 2 試合中

- (9) 主審から見えない位置で生じたホールディングおよびドリブルの反則やオーバータイムスの反則を確認したときはハンドシグナルのみで主審に合図する。

➡オーバーネットを削除した。

### 7. 第31条 記録員

#### 第2項 責務

##### 2 試合終了後

- (3) ゲームキャプテンが競技規則の適用解釈についての異議を公式記録用紙に記録することを求めているときは、その内容を記入する。この場合、チームキャプテン自身に記入させてもよい。

➡文言を変更した。

### 8. 第33条 公式ハンドシグナル

#### 第7図 審判員の公式ハンドシグナル

➡凡例の変更。

### 9. 付録(4) ケースブック

- 3-8-1 ➡ ルールの内容変更  
3-8-2 ➡ ルールの内容変更  
3-5-18 ➡ ケース、ルールの内容変更  
4-7-5 ➡ ルールの内容変更  
5-1-5 ➡ ルールの内容変更

### 3 ビーチバレー改正点・修正点

本競技規則は、2021年10月にFIVBより「ルールブック2021-2024」としてホームページで公表されたものであり、2024年度はルールの改正はない。

本年度のルールブックも「英文併記」とし、『ケースブック』のケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトとURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な修正点である。

#### ● 修正点

1. 「ディレイワーニング」を「ディレイウオーニング」に表記変更した。
2. 本文中に「ボールマークプロトコール (BMP)」の記入法を追記した。
3. 本文中の「リカバリーインターラプション (RIT)」の記入法を修正した。また、本文中およびスコアシートのメディカルアシスタンス表の項目を日本語表記に統一した。
4. ケースブックにアンダーウェアの着用について追記した。
5. スコアシートの没収試合記入例を一部修正した。
6. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。
7. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

### 4 ソフトバレー改正点・修正点

競技規則制定から37年を迎え、競技規則は、6・9人制バレーボールの長所を生かしながらソフトバレーボールの本質である「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」に沿い、適合したものとなるよう心掛け編集を行った。

本年度は、監督およびチームキャプテンの権利と義務の表現をより明確にし、フットフォルトとパッシングザセンターラインをペネトレーションフォルトに統一した。

以下が本年度の主な修正点である。

#### ● 修正点

##### I. 条文の修正

##### 第2章 チーム

##### 6 競技参加者の権利と義務

##### 6.2 監督の権利と義務

- 6.2.1 監督は各セットの開始前に、サインしたラインアップシートを副審または記録員に提出する。
- 6.2.2 監督は試合前、公式記録用紙に記載された選手に誤りがないか確認しサインする。
- 6.2.3 監督は、試合中、チームベンチの記録席に最も近い位置に座っていなければならない。競技中断の間は立ち上がって指示をしても良い。
- 6.2.4 監督は、選手交代およびタイムアウトを要求することができる。  
しかし、選手としてコート内にいるときは、その権利を失う。
- 6.2.5 監督は、いかなる場合でも審判員の判定に対して、異議を申し出ることは許されない。

⇒ 監督の権利と義務の条文を加え、これまでの条項を6.2.3から6.2.5に繰り下げる修正をした。

##### 6.3 チームキャプテンの権利と義務

- 6.3.1 チームキャプテンは次のことを行う。

6.3.1.1 監督が不在の場合、サインしたラインアップシートを副審または記録員に提出する。

6.3.1.2 チームを代表してトスを行い、監督が不在の場合は試合前、公式記録用紙に記載された選手に誤りがないか確認しサインする。

6.3.1.3 試合終了後、公式記録用紙にサインし結果を承認する。

⇒ チームキャプテンの権利と義務の条文を加える修正をした。

#### 6.4 選手の服装

6.4.2 選手のユニフォームには胸部と背部の中央に、胸部には高さが最小限10cm、背部には高さが最小限15cmで字幅は2cm以上のユニフォームと異なった色の1から99の番号を付けなければならない。

なお、全国大会では、年齢、性別によって番号を指定することがある。

⇒ ユニフォーム番号のサイズに高さの表記を加え、使用できる番号の修正をした。

### 第3章 試合の準備と進行

#### 10 選手の位置とローテーション

##### 10.1 位置

10.1.2 サーバーによりボールが打たれた瞬間に両チームの選手は、サーバーを除きコートの内側で、それぞれのポジションに位置していなければならない。

##### 10.1.2.2 フロントの選手とバックの選手の位置関係

各フロントの選手の片足の少なくとも一部は、それぞれに対応するバックの選手の両足よりも、センターラインの近くに位置していること。ただし、バックの選手が対角となるフロントの選手より前方に位置しても反則とはならない。

10.1.3 サービスが打たれた後は、どのように移動してもよく、プレー上の制限はない。

〈第2図 ローテーション〉

⇒重複した条文を削除、整理する修正をした。

### 第5章 プレー上の動作と反則

#### 17 サービス

##### 17.4 サービスの実行

17.4.7 サーバーのペネトレーションフォルトやサービス側のアウトオブポジションとレシーブ側のアウトオブポジションが同時に起きたときは、サービス側の反則とする。

⇒フットフォルトをペネトレーションフォルトに修正した。

#### 19 アタックヒット

19.4 サービスされたボール全体がネット上端より高い位置にあるときに、選手がアタックヒットを完了したときは反則となる。

19.5 「ファミリーの部」では、サービスされたボール全体がネット上端より高い位置にあるとき、バックに位置した大人の選手がアタックヒットを完了したときは反則となる。

⇒ ネットとボールの位置の表記を明確にする修正をした。

#### 22 プレー上の反則

##### 22.1 ペネトレーションフォルト

22.1.1 サービスボールを打った瞬間あるいはジャンプサービスをするため踏み切ったときに、コート<sup>1</sup>の床（エンドラインを含む）や、サービスゾーン（あるいはショートサービスゾーン）外側のフリーゾーンの床に接触していたとき。

※ 小学生競技規則3試合の進行3.2中の表記についても同様に改正した。

22.1.2 サーバーによりボールが打たれた瞬間に、サーバーを除く両チームの選手が、それぞれのコート外の床に接触していたとき。

22.1.3 センターラインを完全に越えて、相手コートに接触したとき。ただし、片方の足(両足)または片方の手(両手)の一部がセンターラインに接触しているか、その真上に残っていれば許される。しかし、肘、膝、頭などの身体部分が相手コートに接触した場合は反則となる。(第8図)

22.1.4 選手が、フリーゾーンを完全に越えたとき。

22.1.5 隣接するコートに身体の一部でも侵入したとき。

⇒ フットフォルト、パッシングザセンターラインをペネトレーションフォルトとし条文を整理、また選手がフリーゾーンの外側や隣接するコートに入る動作の条文を加える修正をした。

22.12 ボールアウト

22.13 ダブルファウル

22.14 インターフェア

⇒ フットフォルト、パッシングザセンターラインをペネトレーションフォルトに統一したことにより、ボールアウト以降の条項を繰上げる修正をした。

## 第7章 審判員とその責務および公式ハンドシグナル

### 29 線審

29.1 2人の線審は、ネットに向かって左側のコートの両端から0.5～1m離れた位置に立ち、フラッグを使ってその任務を遂行する。

29.2 線審は、担当するコーナーでボールのイン、アウトやセンターラインを除くペネトレーションフォルトを判定し、公式フラッグシグナルで合図する。

29.3 線審は、ボールがアンテナに接触したり、その想像延長線を通過したり、その外側を通過したとき、公式フラッグシグナルで合図する。

⇒ 旗をフラッグに、合図するを公式フラッグシグナルで合図するに修正し、また、判定すべき責務を明確にする修正をした。

### 31 主審と副審の公式ハンドシグナル (第10図)

第10図 主審と副審の公式ハンドシグナル

#### ●ボールアウト ④

規則21.2, 22.12, 26.2.2.2 (b), 27.2.2.4, 27.2.2.5

#### ●ダブルファウル (ノーカウント) ⑤

規則11.5, 15.2, 18.7, 22.13, 22.2.22 (d), 27.2.2.6

⇒条項の修正をした。

規則17.4.5, 7.4.6, 22.1, 26.2.2.2 (b), 27.2.2.3

補足事項 片方の手でセンターラインまたは足元を指す。

⇒ フットフォルト、パッシングザセンターラインをペネトレーションフォルトとし、表記内容、規則条項、補足事項の修正をした。

#### ●アタックヒットの反則 ⑩から、失格 ⑳

⇒ フットフォルト、パッシングザセンターラインをペネトレーションフォルトとしたことに伴い、アタックヒットの反則以降の公式ハンドシグナルの○枠の番号を繰上げる修正をした。

第11図 線審のフラッグシグナル

#### ●ボールイン ① 補足事項 フラッグを下げる。

#### ●ボールアウト ② 規則21.2.1, 22.12.3, 22.12.5, 22.12.6, 29.2

補足事項 フラッグを上げる。

#### ●ワンタッチ ③ 補足事項 フラッグを立て、他方の手のひらをフラッグの先端にのせる。

#### ●ボールのアンテナへの接触

#### ●アンテナ上方外側の通過

●センターラインを除くペネトレーションフォルト ④

規則 17. 4. 5, 17. 4. 6, 21. 2. 2, 21. 2. 3, 22. 1. 1, 22. 1. 2, 22. 1. 4, 22. 1. 5, 22. 12. 1, 22. 12. 2,  
29. 2, 29. 3

補足事項 アンテナ, ラインまたはフリーゾーンを片方の手で指し, 頭上のフラッグを左右  
に振る。

⇒旗をフラッグとし, 条項と補足事項の修正をした。

II. その他

規則, 公式記録記入法, プロトコールおよびケースブックをより読み易く理解しやすいように  
表記の見直し, 字句を修正した。

## 『2024年度 レフェリーの目標と6人制の重点指導項目』

JVA大会運営事業本部 審判規則委員会 指導部

### 1 目 標

- (1) 競技規則の精神を理解し、論理的・実践的な知識を習得する。
- (2) 正しい判定をするための眼を養い、そのための基本的な動きや位置取りを研究し、審判技術の向上に努める。
- (3) 多くの経験を通して、強いメンタルと人間性の醸成に努め、よりよいゲームマネジメントに繋げる。

### 2 重点指導項目

#### 【ファーストレフェリー】

- (1) ハンドリング基準について
  - ・すべてのレフェリーが統一できるようにする。少なくとも、試合を通して一定した判定ができるよう基準をもつ。
  - ・特に、オーバーハンドを用いたプレーのハンドリング（キャッチ）について、同一の基準で判定を行う。
- (2) 不法な行為について
  - ・参加競技者の不法な行為に対しては、毅然とした態度で競技規則を適用する。
  - ・最終判定後、セカンドレフェリーと協働し、コートを確認する。
  - ・軽度な不法行為を繰り返すことがないために、早い段階でステージ1を与える。
- (3) ネット際の判定について
  - ・選手がネット際でボールをプレーする際、起こるであろうプレーを予測し、正確な判定を行えるよう、ベストなポジションニングで判定を行う。
- (4) ポジションの反則の判定について
  - ・サービスヒットの瞬間に、完全に入れ替り反則となるケースについて、確実に判定する。

#### 【セカンドレフェリー】

- (1) 不法な行為についておよびベンチコントロールについて
  - ・ラリー終了後の相手選手に対しての言動について、最終判定後、ファーストレフェリーと協働しコートを確認する。
  - ・ネット際やベンチ等でファーストレフェリーが気づかない不法な行為があればファーストレフェリーに伝える。
- (2) ネット際の判定について
  - ・選手がネット際でボールをプレーする動作中、ボールを追わずにネット際に目を残し判定をする。
  - ・ペネトレーション等
- (3) ポジションの反則の判定について
  - ・サービスヒットの瞬間に、完全に入れ替わっているケースについて、確実に判定する。
- (4) 試合中のスコアラーのコントロール、不測の事態を的確に処置する。またスコアシートの最終確認を確実に行う。

#### 【スコアラー】

サービス順の確認、得点の確認を常に行いながら、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認をしてミスの無いようにする。  
(JVIMSがある場合は、その情報も参考にする)

#### 【アシスタントスコアラー】

- (1) 不法なリベロリプレイメントの際の手順について、正確に行う。
- (2) スコアボードの得点が正しいか常に確認する。

# 2024年度 6人制ルールの取り扱いについて

2024, 2, 23

## 【1】 プレーの動作に関する事項

### 9.2 ヒットの特性

9.2.1 ボールは身体の中のどの部分で触れてもよい。

9.2.2 ボールをつかむこと、投げることは許されない。ボールはどの方向にはね返ってもよい。

### 9.3 ボールをプレーするときの反則

9.3.1 フォアヒット：チームが返球する前にボールを4回ヒットすること。

(規則 9.1, 第 11 図⑨)

9.3.2 アシステッドヒット：選手が競技エリア内でボールをヒットするために、チームメイトまたは構造物や物体からの助けを得ること。(規則 9.1.3)

9.3.3 キャッチ：ボールをつかむ、または投げる。この場合、ボールはヒット後、接触しているところから離れない。(規則 9.2.2, 第 11 図⑩)

9.3.4 ダブルコンタクト：1人の選手が連続してボールを2回ヒットすること、またはボールが1人の選手の身体の上のさまざまな部分に連続して触れること。

(規則 9.2.3, 第 11 図⑪)

#### (注)

- 1 プレーのハンドリング基準は、すべて同一である。
- 2 ボールは、クリアにヒットされなければならない。ボールをヒット後、接触している部分から離れないと判断された場合はキャッチの反則となる。
- 3 ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる。このようなプレーはキャッチの反則となることがある。ファーストレフェリーは、ボールが接触している状況を的確に判定する。
- 4 特にオーバーハンドパスにおいて、手の中に止まるケースや長くとどまるようなプレーは、キャッチの反則となる。

## 12.3 サービスの許可

ファーストレフェリーは両チームがプレーする準備ができて、サーバーがボールを持っていることを確認した後にサービスを許可する。(第 11 図⑫)

#### (注)

- 1 コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときには6人になるよう、またポジション4にリベロが上がった場合は正規の選手にリプレイスメントするよう、サービスのホイッスルの前に促す。

もしファーストレフェリーがそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり完了した場合、ファーストレフェリーはそのことに気づいたら直ちに罰則無しにラリーをやり直さなければならない。

## 【2】 競技参加者の行為に関する事項

### 20.1 スポーツマンにふさわしい行為

20.1.1 競技参加者は公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。

### 20.2 フェアプレー

20.2.1 競技参加者はレフェリーだけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対してもフェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 ファーストレフェリーの判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、規則 20 に反した場合、警告する。繰り返した場合は、ペナルティを科す。
- 3 不法な行為については、その程度に応じて、適切な処置を行う。
- 4 競技参加者が、レフェリーに向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告する。繰り返した場合は、ペナルティを科す。

【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①ファーストレフェリーが最終判定を出した後もレフェリーに不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②ファーストレフェリーがゲームキャプテンの質問に答えた後も、さらに論争を長引かせるようにした場合。
- ③規則の適用や解釈でない内容の質問が、ゲームキャプテンから繰り返された場合。
- ④一度指導されているのに、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、ガッツポーズ等牽制する行為などがあった場合。

【主にステージ 2 に該当するケース（直接イエローカードを出すケース）】

- ①ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して抗議や不服的な態度を必要以上に示した場合。
- ②ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。
- 5 監督がセカンドレフェリーやスコアラーに話しかけることができるのは、リベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声かけ程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけるようなことはできない。
- 6 試合終了後、監督・ファーストレフェリー・セカンドレフェリーはフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

### 【3】 プレーの構造に関する事項

#### 7.4 ポジション

サービスヒットの瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内でローテーション順に位置していなければならない。

7.4.3 選手のポジションは次のとおりコート面に接している両足の位置（最後にコート面に接触していた部分）により決定し、コントロールされる。

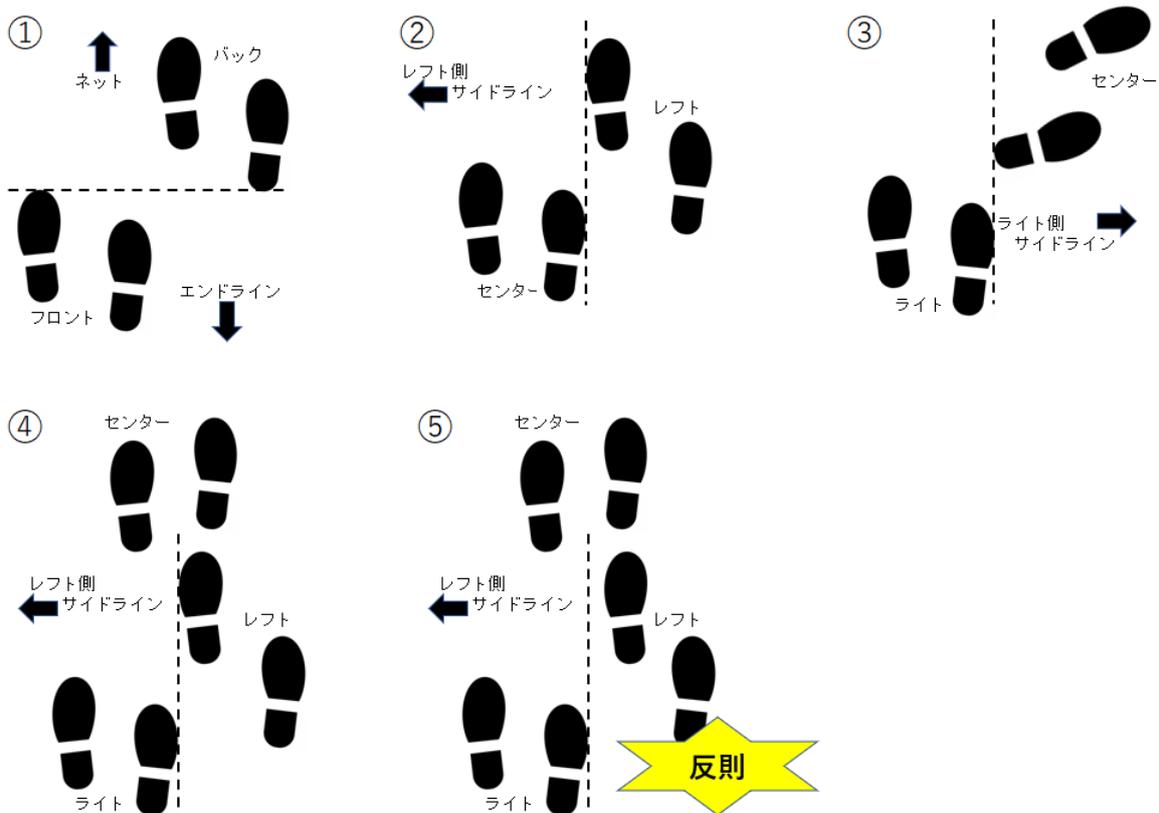
7.4.3.1 各バックプレーヤーは対応するフロントプレーヤーと同じ位置にいるか、少なくとも片方の足の一部が対応するフロントプレーヤーの前の足よりセンターラインから遠い位置にいなければならない。

7.4.3.2 ライト（レフト）サイドの各選手は同じ列の他の選手のライト（レフト）側から遠くにある足と同じ位置か、少なくとも片方の足の一部がライト（レフト）のサイドラインに近い位置にいなければならない。

(注)

- 1 サービスヒットの瞬間に、完全に入れ替わり反則となっているケースがあるため、レフェリーはポジションを常に把握しなくてはならない。
- 2 サービスヒットの瞬間に、コート面に接している足がない場合、最後にコート面に接触していた部分を基準とする。

下図①から④はいずれも反則とならない。



## 【4】 チームリーダーに関する事項

### 5.1 キャプテン

5.1.2 試合中、チームキャプテンはコートに入っているときにはゲームキャプテンとなる。チームキャプテンがコート上にいないときは、監督またはチームキャプテンは、ゲームキャプテンの役割を担うコート上の選手を指名しなければならない。指名されたゲームキャプテンは、選手交代で退くか、チームキャプテンがプレーに復帰するか、またはそのセットが終了するまでその責務を担う。

ボールがアウトオブプレーのとき、ゲームキャプテンだけが次の場合にレフェリーへの発言を許可される：

5.1.2.1 競技規則の適用や解釈について説明を求める。チームメイトの要求または質問を伝える。ゲームキャプテンがファーストレフェリーの説明に納得できない場合は、ファーストレフェリーの決定に対する抗議を選択してもよい。その場合、試合後にスコアシートに正式抗議を記入する権利を確保するため、直ちにファーストレフェリーに申し出る。

(規則 23.2.4)

### 5.2 監督

5.2.1 監督は試合を通してコートの外からチームのプレーを指揮する。また、スターティングラインアップと交代選手を選び、タイムアウトを要求する。これらの役割に関わるのはセカンドレフェリーである。

5.2.3.1 各セットの開始前、正しく記入されたラインアップシートにサインして、セカンドレフェリーまたはスコアラーに提出する。タブレットを使用する場合は送信されたラインアップが公式のものとみなされる。

5.2.3.4 他のチームメンバーと同様にコート上の選手に指示を与えてもよい。

ウォームアップエリアが競技コントロールエリア内のコーナーにある場合、試合を妨げたり遅らせたりしなければ、自チームベンチ前のアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながらでも歩きながらでも指示を出すことができる。ウォームアップエリアがチームベンチの後方にある場合は、自チームのコートのアタックラインの延長線からエンドラインまで移動してもよいが、ラインジャッジの視界を遮ってはいけない。

#### (注)

- 1 試合中に監督をはじめチームスタッフやゲームキャプテン以外のチームメンバーが、レフェリーに質問等、発言をすることはできない。
- 2 監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジ（特にL2・L3）の判定の妨げにならないようにレフェリーが注意する。  
ラリー終了後、レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。
- 3 セット間の時間は前のセットが終了後、次のセットが開始されるまで3分間である。  
したがって、前のセット終了後2分30秒でホイッスルをし、スターティングメンバーをコートに入れ、ラインアップを確認する。そのためにセカンドレフェリーは、積極的に次のセットのラインアップシートの提出を監督に要求する。

## 【5】 中断，遅延行為とインターバルに関する事項

### 15.4 タイムアウト

15.4.1 タイムアウトは，ボールがアウトオブプレーでサービスのホイッスルの前に，該当するハンドシグナルを示して要求しなければならない。チームの要求によるすべてのタイムアウトは30秒間である。（第11図④）

15.4.2 すべてのタイムアウトの間，プレー中の選手は自チームベンチ近くのフリーゾーンに出なければならない。

#### （注）

- 1 タイムアウトに入ったら，コートから離れなくてはならない。ただし，その位置については制限されない。
- 2 タイムアウトは30秒間であるが，選手は，30秒を待たずにコートに戻ってもよい。ただし，タイムアウトの時間が短くなることはない。

## 『2024年度 レフェリーの目標と9人制の重点指導項目』

JVA大会運営事業本部 審判規則委員会 指導部

### 1 目標

- (1) 競技規則の精神を理解し、論理的・実践的な知識を習得する。
- (2) 正しい判定をするための眼を養い、そのための基本的な動きや位置取りを研究し、審判技術の向上に努める。
- (3) 多くの経験を通して、強いメンタルと人間性の醸成に努め、よりよいゲームマネジメントに繋げる。

### 2 重点指導項目

#### 【主 審】

- (1) 最終判定について
  - ・ラリー完了の吹笛をしたときは、自らの判定を頭に置き、副審・線審を確認して、責任を持って説明ができるよう、最終判定を行う。
- (2) ハンドリング基準について
  - ・講習会等へ積極的に参加し、すべての審判員がハンドリング基準の統一を図る。
- (3) ブロッカーのボールタッチについて
  - ・複数のブロッカーの場合、どの選手にボールが接触したかを確実に判定する。
- (4) ネット上のボールへの接触について
  - ・相対する選手がネット上でボールに接触した場合、その接触に時間差がないか、しっかりと見極める。
- (5) サービス許可の吹笛のタイミングについて
  - ・ラリー終了から次のサービス許可の吹笛までの間に、確認すべきことをルーティン化する。

#### 【副 審】

- (1) ワンタッチの補佐について
  - ・主審が補佐を求めた場合、シグナルを出す。
- (2) 中断の要求について
  - ・選手交代およびセット間の選手交代は、記録員とともに組み合わせを確認する。
  - ・タイムアウト終了後に、選手をコートに戻るように促す。戻るのが遅れている場合は、早い段階で遅延の罰則を適用する。
- (3) タッチネットの判定について
  - ・アタックヒット後のアタッカーのタッチネットがあることを想定し、ネット付近に目を残す。

#### 【記録員】

- (1) 選手交代の組み合わせの確認について
  - ・交代できる組み合わせかどうか慎重に確認する。
- (2) サービス順の誤りの処置について
  - ・速やかに処置ができるよう、正しい手順を確実に把握する。
- (3) 記録員としての心構えについて
  - ・審判団の一員として正しく試合を進めるよう任務を遂行する。

# 2024年度 9人制ルールの取り扱い

2024.2.23

## 【1】中断に関する事項

### 第10条 第1項 試合の中断

次の場合は、試合を中断する。

- |                   |        |
|-------------------|--------|
| (1) セット間の中断       | (第11条) |
| (2) タイムアウト        | (第12条) |
| (3) 選手交代          | (第13条) |
| (4) 特殊な事情による試合の中断 | (第17条) |

### 第2項 試合の再開

前項の試合の中断後は次により試合を再開する。

- (1) タイムアウトおよび正規の選手交代の場合は、中断したときのサーバー（サーバーが交代したときは、その交代選手）の第1サービスで再開する。
- (2) 特殊な事情による試合の中断によりノーカウントとなった場合は、中断したときのサーバーの中断したときのサービス（第1または第2サービス）で再開する。  
この中断によりコートが変更になったときでも、中断したときの公式記録を有効として、中断したときのサーバーの中断したときのサービス（第1または第2サービス）で再開する。  
ただし、同日中に試合を再開できないときはその試合はやり直しとする。

#### (注)

これまでの競技規則では、「他のコートからボールが侵入し、ラリーが「ノーカウント」となった場合は、第2サービスで始まったラリーであっても、第1サービスから再開する。」としていたが、今年度の競技規則の改正により「中断したときのサーバーの中断したときのサービス（第1または第2サービス）で再開する。」となったので、特に第2サービスで始まったラリーは審判団で管理し運営する。

## 【2】特殊な事情による試合の中断に関する事項

### 第17条 特殊な事情による試合の中断と処置

次のような事情で試合を中断する必要があるときは、インプレー中でも直ちにプレーを停止しノーカウントとする。同日中に試合の再開が不可能なときは、試合は延期または中止とする。

- (1) 他のボールや他のコートの選手がコートに侵入し、プレーの妨げとなったとき。
- (2) 照明などの設備や競技用具が破損または故障したとき。
- (3) 天候の異変、地震等その他やむを得ない事故が発生したとき。
- (4) 何らかの理由により審判員がプレーを停止し、そのラリーがやり直しとなったとき。  
これらの場合の試合の再開は第10条第2項に定めるところによる。

#### (注)

- 1 インプレー中にプレーを停止したときは、ノーカウントのハンドシグナルを示す。
- 2 得点を伴わないラリーの中断後は、ラリーが完了していないので、すべての試合中断の要求が認められない。

### 【3】タイムアウトに関する事項

#### 第12条 タイムアウト

- 1 タイムアウトはラリー完了後、次のサービス許可の吹笛までに監督が、監督がいない場合はゲームキャプテンが主審または副審にハンドシグナルを示して要求しなければならない。
- 2 タイムアウトの時間は1回について30秒間とし、1セットに2回または2回を連続して要求することができる。
- 3 タイムアウトの間、プレー中の選手は自チームベンチ近くのフリーゾーンに出なければならない。ただし、他の試合の妨げとならない限りエンドライン後方のフリーゾーンでボールを使用しないでウォームアップをすることができる。

(注)

- 1 タイムアウトに入ったら、コートから離れなくてはならない。ただし、その位置については制限されない。
- 2 タイムアウトは30秒間であるが、選手は、30秒を待たずにコートに戻ってもよい。ただし、タイムアウトの時間が短くなることはない。

### 【4】サービスに関する事項

#### 第23条 第3項 サービスの反則

次のいずれかに該当するときはサービスの反則とする。

- (1) サービス順を誤ってサービスをしたとき（サービス順の誤り）。
- (2) サービスの失敗を2回続けたとき（ダブルフォルト）。（第23条第2項）

(注)

チームがサーバーについて審判団より誤った情報を与えられたとき、そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合、誤った情報が与えられた時点の状態にサービス順を戻し、得点も誤った情報が与えられた時点まで戻す。タイムアウト、罰則はそのまま有効とする。  
これらの事実は記録用紙に記録されなければならない。

### 【5】試合の遅延に関する事項

#### 第26条 第2項 試合の遅延に対する処置（第5表）

- 2 遅延警告の罰則が適用された場合は、同じ中断中に中断の要求をすることはできない。

(注)

- 1 遅延警告が適用された場合、同じチームによる試合中断の要求は、次のラリーが完了するまで認められない。（けがや病気による選手交代を除く）
- 2 不当な要求を繰り返したことにより遅延警告となった場合も、同様の取り扱いとする。



## 『2024年度 レフェリーの目標とビーチバレーボールの重点指導項目』

JVA大会運営事業本部 審判規則委員会 指導部

### 1 目標

- (1) 競技規則の精神を理解し、論理的・実践的な知識を習得する。
- (2) 正しい判定するための眼を養い、そのための基本的な動きや位置取りを研究し、審判技術の向上に努める。
- (3) 多くの経験を通して、強いメンタルと人間性の醸成に努め、よりよいゲームマネジメントに繋げる。

### 2 重点指導項目

#### 【ファーストレフェリー】

- (1) ハンドリング基準について
  - ・オーバーハンドのセットアップやハードドリブン（強打）のオーバーハンドレシーブについて正しく理解し、試合を通して同一の基準で判定を行う。
  - ・オーバーハンドでの返球は、常に予測しアタックヒットの反則に注意する。
- (2) サービス許可について
  - ・ラリー終了後、12秒以内にサービス許可のホイッスルができるよう、両チームが遅延なく準備をするよう積極的に促す。
- (3) 遅延行為について
  - ・ラリー間やセット開始前、タイムアウト・テクニカルタイムアウト終了時において、選手のどの行為が遅延の対象となるかを理解し、選手の遅延を防ぐ。
- (4) 各プロトコルの的確な運用について
  - ・マッチプロトコル、ボールマークプロトコル、メディカルアシスタンスプロトコルおよびプロテストプロトコルについて、その運用方法を理解する。
- (5) 不法な行為について
  - ・選手ならびにチームスタッフの不法な行為は、毅然とした態度で競技規則を適用する。

#### 【セカンドレフェリー】

- (1) コートスイッチについて
  - ・コートスイッチの手順および取扱いを十分理解し、スムーズに行えるようにする。
- (2) 得点とサービス順について
  - ・スコアラー、アシスタントスコアラーと密に連携し、両チームの得点およびサービス順の確認を確実に行う。
- (3) 遅延行為について
  - ・選手のどの行為が遅延の対象となるかを理解し、積極的に選手を促しファーストレフェリーを補佐する。
  - ・選手の不測の事態（砂が口に入りうがいをする、サングラスが破損し交換する場合など）に対して、適切なコントロールを行う。

#### 【スコアラー】

- (1) サービス順の確認、得点の確認をしながら、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認する。
- (2) コートスイッチとそれぞれのセット終了レフェリーに正確に知らせる。

#### 【アシスタントスコアラー】

- (1) 常にスコアラーと連携し、サーバーの番号や得点を確認する。ラリー終了後、直ちに次のサーバーの番号（ナンバーパドル）を示す。

## 【1】 サービスに関する事項

### 12.3 サービスの許可

ファーストレフェリーは両チームがプレーする準備ができて、サーバーがボールを持っていることを確認した後にサービスを許可する。

#### (注)

- ラリー終了のホイッスルから、次のサービス許可のホイッスルまでの時間を、12秒以内のテンポで行う。ラリー間を一定に保つために、選手をコントロールするとともに、ラインや砂の状態、またはボールリトリバーのボール回しの状況を確認することが重要である。
- ラリー終了12秒後に、レシービングチームの準備ができていて、サーバーがボールを保持しているれば、ファーストレフェリーは、サービス許可のホイッスルをしてよい。サーバーが準備できているかどうか確認する必要はない。ラリー終了後、レシービングチームの準備が12秒よりも早い場合は、サーバーがボールを保持していても、サーバーの準備を待つことができる。また、レシービングチームが次のプレーの準備ができていない場合は、サービス許可のホイッスルをしてはならない。ただし、すべての選手が準備できていれば、12秒より前にホイッスルしてもよい。
- ラリー終了後、サーバーが速やかにサービスゾーンに移動しない場合や、ボールリトリバーからボールを受け取らない場合、また、ボールを保持した状態でサービスゾーンを平らに直す行為等は、遅延行為として注意を与えなければならない。

## 【2】 試合の遅延に関する事項

### 16.1 遅延行為の種類

試合の再開を引き延ばすようなチームの不当な行為は遅延行為である。主なものは以下のとおりである。

16.1.1 試合を再開するように指示された後、中断をさらに引き延ばすこと。

16.1.3 試合を遅らせること（通常の試合の状況下で、ラリー終了からサービスのホイッスルまでは最大限12秒間である）。

16.1.4 チームメンバーが試合を遅らせること。

#### (注)

- 選手が、サングラスを拭いたり砂をならしたりする場合、ラリー終了後、直ちに行わなければならない。一度次のポジションに着いた後に行うことは遅延となる。また、2つ以上の行為（サングラスを拭いた後、ラインや砂を直す等）も遅延となる。
- TO及びTTOの終了後、コートへ戻る行為が遅い場合、またコートへ戻った後プレーを再開する前にサングラスを拭いたりする場合も遅延行為となる。

(注)

- 3 選手の自然なリアクションか、判定をごまかす行動か、または遅延行為か等を的確に見極める。審判団は、ラリー終了後、速やかにラインや砂を直すことを優先し、特にファーストレフェリー・セカンドレフェリーは、毎ラリー終了後にその状態を確認する必要がある。
- 4 セカンドレフェリーは、ラリー終了後、まずサーバーの確認、スコアラーの任務の確認を速やかに行うとともに、競技エリアの状態を確認すること。
- 5 ファーストレフェリーがキャプテンの質問に答えた後にも、質問を繰り返したり、規則の適用や解釈ではない質問で中断を長引かせたりするようにした場合も遅延行為となる。
- 6 猛暑対策時における、スイッチ時の給水やサングラスのワイピングの遅延のコントロールを適切に行うこと。

## 18.2 コートスイッチ

- 18.2.2 コートスイッチは遅れることなく速やかに行われなければならない。  
コートスイッチが正規に行われなかった場合、気付いた時点で行われる。  
その時の得点はそのまま継続される。

(注)

- 1 スコアラーズテーブル右側のベンチに座るチームはファーストレフェリー側で、左側のベンチに座るチームはセカンドレフェリー側でコートスイッチする。
- 2 サングラス用ワイピングタオルは、コートの両側の支柱近くネットのアンダーロープに掛けられ、コートスイッチの側で、必要な場合にのみ遅延なく使用できる。
- 3 監督のベンチ入りが許可されるアンダーカテゴリーの大会においては、両チームともにセカンドレフェリー側でスイッチすることができる。  
サングラス用ワイピングは、ネットのアンダーロープに掛けられたタオルで行うが、コートスイッチの際はベンチ入りしている監督が手渡してもよい。

## 【3】 中断に関する事項

### 15.2 正規の試合中断の連続

- 15.2.3 中断の要求を拒否されディレイウォーニングが適用された場合、同じ中断中（次のラリーが完了する前）に正規の中断の要求をすることはできない。

### 15.5 不当な要求

- 15.5.1 ラリー中、またはサービスのホイッスルと同時に、あるいはその後に要求すること。（規則 6.1.3）
- 15.5.2 要求する権利のないチームメンバーが要求すること。

(注)

- 1 正規の試合中断の要求に関して、チームがディレイウォーニングを受けた場合、同じチームによる試合中断の要求は、次のラリーが完了するまで認められない。
- 2 サービスのホイッスルと同時か、あるいはその後の試合中断の要求は拒否され、ラリー終了後、**また**は必要に応じてリプレイとし、スコアシートに不当な要求として記載する。セカンドレフェリーがホイッスルした場合やブザーが鳴った場合でも、特に試合を遅らせずに再開できる時には遅延とはせず、サービスのホイッスルを吹き直し、そのラリー終了後に不当な要求の措置を行う。
- 3 キャプテンではない選手がタイムアウトを要求したすぐ後（同じラリー間）、続いてキャプテンがタイムアウトを要求した場合（キャプテンが要求せずにそのままタイムアウトとしてベンチに戻ろうとしているときは、レフェリーからキャプテンにハンドシグナルを示すよう促す）、タイムアウトの要求は許可される。キャプテンではない選手が要求したタイムアウトにキャプテンが同意せずコートに残っている場合等は、不当な要求とみなし、スコアシートの備考欄下段に記録する。
- 4 それまでにチームが遅延の罰則を受けていても、不当な要求がチームの最初のものであれば、拒否される。その際、ラリー終了後に不当な要求としてスコアシートに記録する。

## 17.1 負傷/病気

- 17.1.1 ボールがインプレー中に重大な事故が起きた場合、レフェリーは直ちに試合を止めて医療担当者がコートに入ることを許可しなければならない。ラリーはその後やり直しとなる。

### ※猛暑対策

選手の健康管理を考慮し、競技委員長または審判委員長の決定により、下記を段階的、または同時に適用する。

その許可のタイミングは、試合ごとではなく複数コートの場合でも同じ時刻に適用する。審判委員長は、ラリー間にレフェリーに許可を通知し、レフェリーは直ちにキャプテンに適用内容を通知しなければならない。

- (1) ラリー間12秒を15秒に延ばす。(選手には伝えない。)
- (2) コートスイッチごとに、速やかに水分補給することを許可する。(ベンチに座ったり、パートナーと会話したり、サングラスを拭いたりすること等はできない。)
- (3) 1, 2セット時には21-21のときに2回目のテクニカルタイムアウト(TTO)を、3セット時には3回目のコートスイッチのときにTTOを行う。

(注)

- 1 ラリー中に重大な事故が発生し、選手が出血している場合、またはプレーが続行され選手が状態を悪化させる可能性がある場合、レフェリーは直ちに、ホイッスルしてプレーを止める必要がある。  
ファーストレフェリーは、出血が確認されるか選手からの要求に応じて MTO を許可することができる。MTO を許可する前に、チームのタイムアウトを使用する必要は無い。
- 2 試合中のプレーの過程で、負傷を負った選手に適切な治療を提供するとともに、すべての当事者の安全を確保するために、不正防止を目的として十分な注意を払う必要がある。
- 3 ファーストレフェリーは、出血をとまなわない重度の負傷/病気（外傷性負傷・非外傷性負傷・非接触負傷を含む）や、厳しい気象条件（競技委員長が、審判委員長や大会公認医師/医療委員長等と協議した上で、公式に厳しい気象条件下であると宣言した場合）による病気の場合、または選手がトイレを使用する場合、選手からの要求に応じて最大 5 分の RIT を許可することができる。  
RIT を許可する前に、まず、その時点で使用可能なチームのタイムアウト、または、TTO かセット間を使用する。TTO かセット間を使用した後で RIT を許可する場合、タイムアウトを使用する必要は無い。
- 4 選手が負傷/病気になった場合、ラリー終了後直ちに、セカンドレフェリーは医療支援を要求するかどうかを選手に確認する必要がある。  
ファーストレフェリーはまず、チームタイムアウトを許可し、その後、問題が解決しない場合にのみ、ファーストレフェリーがメディカルアシスタンスプロトコルの開始を許可し、医療スタッフ到着後、ただちにファーストレフェリーがホイッスルをしてプロトコルを開始する。
- 5 レフェリーは、メディカルアシスタンスプロトコルを開始する前に、負傷や病気に至った状況を認識する必要があり、その性質および程度（軽度または重度）を確立する責任がある。
- 6 一試合中に同一選手は、最大 1 回の RIT を要求する権利があり、MTO と 1 回の RIT の両方を要求する可能性があり、これらは使用順序に関係なく許可される。
- 7 試合（最初のサービス）が開始されていなくても、チームはタイムアウトを取得でき、必要であればメディカルアシスタンスを要求する権利がある。
- 8 ファーストレフェリーは負傷選手の対応をし、セカンドレフェリーはスコアラーとコート全体の対応をする。また、プロトコル終了はファーストレフェリーのホイッスルによって通知し、セカンドレフェリーは選手が速やかにコートに戻るよう指示する。
- 9 スコアラーは下記の 2 つの時間を記録することが重要である。
  - (1) ファーストレフェリーがメディカルアシスタンスプロトコル開始のホイッスルをした時間。
  - (2) ファーストレフェリーがメディカルアシスタンスプロトコル終了（許可された最大 5 分後、または公式医療スタッフによる治療が完了したと宣言された直後か、治療が提供できない場合、または選手がプレーを再開する準備ができていると宣言した場合）のホイッスルをした時間。

## メディカルアシスタンスプロトコール

### 11 さまざまな種類の負傷/病気と医療支援

負傷の種類	程度	措置	許可・計時
メディカルタイムアウト (MTO) 出血をともなう負傷	軽度	ー遅延なく治療 ー医療支援なし	ファーストレフェリーにより、出血が確認されるか選手からの要求に応じて許可 許可された時点から計時を開始
	重度	ーメディカルタイムアウト (MTO) / 最大5分	
出血をともなわない負傷/病気(RIT) (出血をともなわない外傷性負傷、非外傷性負傷、非接触負傷を含む)	軽度	ー遅延なく治療 ー医療支援なし	ファーストレフェリーにより、選手からの要求に応じて許可 許可された時点から計時を開始
	重度	ーまず、その時点で使用可能なチームのタイムアウト、または、TTO かセット間に治療を行う。 ーリカバリーインターラプション (RIT) / 最大5分	
厳しい気象条件による病気 (RIT) (競技委員長が、審判委員長や大会公認医師/医療委員長 (居る場合) と協議した上で、公式に厳しい気象条件下であると宣言した場合)		ーまず、その時点で使用可能なチームのタイムアウト、または、TTO かセット間に治療を行う。 ーリカバリーインターラプション (RIT) / 最大5分	ファーストレフェリーにより、選手からの要求に応じて許可 許可された時点から計時を開始
トイレの使用 (RIT) (通常の試合中、選手がトイレ使用で遅延した場合のみ)		ー選手は、試合を遅らせない限り、試合中にトイレを使用する権利がある。 ーRIT を許可する前に、まず、その時点で使用可能なチームのタイムアウト、または、TTO かセット間を使用する。 ー遅延が発生した場合は、RIT (最大5分) がその選手に与えられ、選手が戻ったらすぐに試合は再開される。	ファーストレフェリーにより許可 許可された時点から計時を開始
注: メディカルアシスタンスは、試合が遅れない限り、通常の試合中断時やその他の試合中断時に医療支援 (治療) が認められます。			

### 17.2 外部からの妨害

試合中に外部からなんらかの妨害があった場合、プレーを止めなければならない。ラリーはやり直しとなる。

#### (注)

- ラリー中、外部からボールが飛んできた場合、コートに向かってきているだけでなく、スコアラーステーブル前や、エンドラインとバナーの間のフリーゾーンであっても、外部からの妨害を示唆しているため、選手が反応する、しないに関わらず、プレーを止めなければならない。
- 突風等によりパラソルやベンチ周りの物が飛んだりした場合も、選手に危険がおよぶと判断し、外部からの妨害とみなす。

## 【4】 競技参加者の行為に関する事項

### 19.1 スポーツマンにふさわしい行為

- 19.1.1 競技参加者は公式ビーチバレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。
- 19.1.2 競技参加者はレフェリーの決定に対してスポーツマンらしく反論せず受け入れなければならない。疑問がある場合はキャプテンを通してのみ説明を求めることができる。(規則 5.1.2.1)
- 19.1.3 競技参加者はレフェリーの決定に影響を与えたり、またはチームの反則を隠したりする行動や態度は避けなければならない。

### 19.2 フェアプレー

- 19.2.1 競技参加者はレフェリーだけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対してもフェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 ファーストレフェリーの判定に対するキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やキャプテン以外の選手が質問に来た場合は拒否する。
- 2 競技参加者が規則 19 に反した場合、または、レフェリーの判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告する。繰り返した場合はペナルティを科す。

【主にステージ 1 に該当するケース】

- ① ファーストレフェリーが最終判定を出した後レフェリーに不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ② キャプテン以外の選手が判定に対して質問し拒否された後、試合を再開しない場合。

【主にステージ 2 に該当するケース（直接イエローカードを出すケース）】

- ① レフェリーやラインジャッジの判定に対して、抗議や不服的な態度を執拗に示した場合。
- ② ネット越しに相手の選手などに対して、ガッツポーズ等牽制する行為などがあった場合。

※上記について、不服的な態度や行為の内容や程度によって、無作法な行為あるいは侮辱的な行為として判断した場合には、規則 20 に基づき罰則を適用する。

## 【5】 コーチングについて

付録1) 国内の大会に適用される 特別競技規則 \*付則の 1 【監督に関する規定】に関すること

- 5 ベンチ入りする監督は次の権限を持ち義務を負う。
  - (3) 監督は、トス開始前はコートでのウォームアップに参加することができる。また、アンダーカテゴリーの大会においては公式ウォームアップにも参加することができる。
  - (6) チームサイドがコートスイッチにより入れ替わる際には、監督もその都度ベンチを移動しなければならない。アンダーカテゴリーの大会においては、監督は(5)の他ラリー終了後次のサービス許可のホイッスルまでの間に選手に指示することができるが、コートスイッチのときを除いて、座ったままでいなければならない。  
コートスイッチ中（立ち止まらず、歩いている間）に試合を遅延させなければ選手に指示を出してもよい。

(注)

- 1 レフェリーは、監督が規定通りに行っているか、また、ラリー中に立ち上がったたり、指示や声援をしたりしていないか、注視しなければならない。
- 2 ベンチ入りしない監督やコーチ等によるコート外からのコーチングが疑わしい場合は、レフェリーは審判委員長および競技委員長をコートサイドに呼んで報告する。  
※この場合の処置はチームに関係なく個人に対してのものであり罰則とはならない。  
しかしコーチングを受けたチームに対しレフェリーは口頭で注意を行う。(これは罰則ではない)
- 3 アンダーカテゴリーの大会の場合、上記に加えて以下についても確認し、積極的にコントロールしなければならない。
  - ① ラリー終了後、次のサービス許可のホイッスルまでの間に、立ち上がって指示していないか。
  - ② チームのコートスイッチによりベンチを移動する際、指示やワイピングタオルを渡すことで遅延をしていないか。
  - ③ 猛暑の際に給水措置が取られる場合は、ベンチ移動の際に、監督が選手に飲み物を手渡して給水してもよいが、立ち止まるなど遅延をしていないか。遅延をした場合は遅延の罰則が適用される。
  - ④ 監督がタイムアウトを要求するときに、ハンドシグナルを示しているか。(口頭だけの要求は許可されない。)

## 【6】 スコアシート記入法に関する事項

### 2 トスの後に

#### 2.2 セカンドレフェリーから

- a) 最初にサービスをするチーム
- b) それぞれのチームの試合開始時のコートサイド

(注)

- 1 トスに勝ったチームが選択をした後、もう一つのチームが選択を終え、両キャプテンがスコアシートにサインをしている間に、ファーストレフェリー・セカンドレフェリーでトスの結果を復唱し、両者で間違いがないか確認する。(トスの最中に選手越しにスコアラ-に伝えない。)
- 2 両キャプテンがスコアシートにサインをし終えてから、セカンドレフェリーがスコアラ-にトスの結果を伝える。
- 3 公式ウォームアップが終了する前に、スコアラ-がトスの結果とサービス順を正しく記入しているか、ファーストレフェリー・セカンドレフェリーは交互にスコアシートを確認する。(一方が確認しているとき、もう一方はコート上のコントロールを行う。)
- 4 試合終了後、マッチプロトコールにしたがってレフェリースタンド前からスコアラ-ズテーブル前に戻る際、キャプテンがサインし終わるまではスコアラ-ズテーブルのそばに近寄らず、一定の距離をあけて待つ。必要であれば、レフェリーがベンチに近寄ってキャプテンに声をかけてよいが、即座にサインをするよう強要すべきではない。

## 【7】 ボールマークプロトコル (BMP)

- 1 試合中に適用されるボールマークプロトコルは、特にファーストレフェリーが、試合を迅速に再開できるように、正確さとスピードを備えて完了しなければならない。
- 2 ボールマークプロトコルは、選手からの要求とファーストレフェリー自身が行う2つのケースにより適用される。
- 3 チームはボール「イン/アウト」に関して、ラリー終了時に「BMP」の実施を要求する権利がある。
- 4 両チームのどの選手も要求することができるが、選手は指で「C」の文字を示して「BMP」を要求しなければならない。レフェリーが要求を確認したら、続いて「ラインを指す」シグナルをファーストレフェリーに示す。選手は競技場のどの位置からでも要求することができる。
- 5 選手はラリー終了後5秒以内に「BMP」を要求しなければならない。明らかに要求が遅い場合やコートスイッチ後は「BMP」を要求することはできない。

ファーストレフェリーは、5秒以降またはコートスイッチ後の要求には、片方の手でもう片方の手首を押さえる「レイトBMP」のシグナルを示し、許可しない。
- 6 ファーストレフェリーが、ボールが接地する前にラインに触れたことを目視した場合、「BMP」の要求は受け入れず「不当なBMPの要求」と見なし、許可しない。この場合、選手に説明後、指で「X」のハンドシグナルを正しく示すこと。
- 7 ボールが明らかに（例えば、ラインから1m離れたような）「アウト」であっても、選手が「BMP」を要求した場合には、ファーストレフェリーは「BMP」を許可しなければならない。
- 8 チームは、同じ中断中に2回目の要求を行うことはできない。
- 9 チームは1セットあたり最大2回不成功となるまで「BMP」の権利が与えられる。セット内にチームの2回目の「BMP」が不成功になった場合、そのチームは、そのセットにそれ以上「BMP」を要求できない。レフェリーは、その時点でキャプテンに通知する。
- 10 「BMP」は、タイムアウトの要求など他のすべての手順よりも優先して行う。
- 11 チームは「BMP」の要求後、手順が開始される前、または、手順の極めて初期の段階に「BMP」をキャンセルできるが、試合の遅延となる場合やキャンセルを繰り返した場合、遅延罰則が適用される。
- 12 「BMP」の実施中、選手はベンチに戻ったり、水分補給したりすることはできない。
- 13 ボールマークが、自然発生的または選手によって意図的に変えられ、その検証が実施できない場合はレフェリーの判定どおりとなり、「BMP」の要求数は維持される。

選手が故意にボールマークを隠したり消したりした場合には、適切に罰則を適用しなければならない。
- 14 監督のベンチ入りが許可されるアンダーカテゴリーの大会において、監督はボールマークプロトコルの要求はできない。
- 15 ファーストレフェリーが示した「BMP」の検証結果は最終であり、異議を唱えることはできない。

(注)

- 1 ファーストレフェリーは、ラリーの判定後、チームが「BMP」を要求するかどうかを話し合うための数秒を認めて良い。また、チームが判定を確認せずにサービスゾーン等次のポジションに移動した後「BMP」を要求した場合、コートスイッチやサングラスのワイピング等の行為の後を除き、チームがレフェリーの判定を認識した後5秒以内であれば許可して良い。
- 2 セカンドレフェリーが、選手が「C」のシグナルを示したことを確認し、ファーストレフェリーが気づいていない場合（必要であればホイッスルして）シグナル等で伝え、「BMP」を許可する。
- 3 セカンドレフェリーは、「BMP」を予測し、コートスイッチのホイッスルが早過ぎないように注意する。
- 4 セカンドレフェリーは、試合再開前に、スコアシートとすべてのスコアボードが正しく、選手が正しいローテーションにあることを確認しなければならない。「BMP」が成功となり得点が入れ替わったり、ラリーがリプレイされたりする場合は、特に注意すること。

《スコアシート記入例》

○チームのBMPの要求の場合

（開始時間、セット、スコア、サービスチーム、チームAまたはBによる要求）（結果：「成功」または「不成功」、または「使用不可」）

例 10:02:17, 第3セット, 0:1, Bチームサービス, Aチームが「BMP」を要求。結果：成功  
10:02:34, 試合再開（所要時間 00:00:17）

○レフェリーのBMPの要求の場合

（開始時間、セット、スコア、サービスチーム、レフェリーによる要求）（結果：「インまたはアウト」）

例 10:02:17, 第3セット, 0:1, Bチームサービス, レフェリーによる要求。結果：アウト  
10:02:34, 試合再開（所要時間 00:00:17）